

神聖なる師に魅了される瞬間

60年間近く敬虔で信心深い帰依者であった、タミル ナードゥ州出身のラニ スップラ マニーム女史（訳注：2012年12月1日逝去）が、バガヴァン ババ様のもとを訪れたのは、早くも1950年のことでした。現在85歳で（2008年4月時点）、バガヴァンは親しみを込めて彼女のことを「ラニ マー」と呼ばれていました。彼女の人生は、往年のきらめく体験の宝石箱でした。真摯な霊性求道者である彼女は、現在、プッタパルティに在住し、深い信念、洞察力、そして信仰心を持つ熱心な帰依者たちのために、彼女を高めた数々の思い出を分かち合ってくださいています。これは彼女の素晴らしい回想録の第四部です。第一部、第二部、第三部を読まれる方はこちら [第1部](#) [第2部](#) [第3部](#) をクリックして下さい。

ラニ マー女史へのインタビューより

第4部

神聖なる個人的なご指示



スワミはおっしゃいました。
「私の指示に従う者を、私は祝福します」
しかし、スワミは私たち各自に異なったご指示を出されます。例えば、私はジャパマラ（神の御名を唱える際に使用する数珠）を使ってナーマスマラナ（神の御名を繰り返し唱えること）を行いたかったのですが、スワミはおっしゃいました。

「いいえ！ あなたにはジャパマラは必要ありません。呼吸のみで行いなさい」しかし、

私の妹は言いました。「スワミ、私はジャパマラが欲しいです」スワミはおっしゃいました。

「はい、あなたはそれ（ジャパマラを使って神の御名を唱えること）をしなさい」
その後、私はある活動に参加したいと考えていましたが、スワミはおっしゃいました。
「いいえ！（活動に参加する）必要はありません！ あなたは瞑想を行いなさい！」

その当時は、ダシャラー祭の期間中、料理人がいませんでしたので、帰依者たちはほ

とんどの時間、たくさんの料理を作らなければなりませんでした。お祭りの期間中、スワミは何百人もの貧しい人たちに食事を供給されていたので、マドラス（現在のチェンナイ）やバンガロール（現在のベンガルール）からも帰依者たちが料理の手伝いに来ていました。整った台所の設備がなかったので、このような状況に精通している年長の婦人たちが、アシュラム内に溝のような大きな穴を掘り、そこで槓を燃やして調理していました。

バンガロールから来た帰依者たちは巨大な容器を持ってきていました。何百人分もの食事を用意するために、非常に大きな容器が必要だったからです。そして、このようなやり方で帰依者全員が参加して、各自が自分の器量に応じてできる奉仕を行っていました。50歳から60歳までの年齢グループは、実際に調理する担当になり、その他の人々は野菜などを切ったり、香辛料を調達したりする活動をして手伝いました。そこには屋根がなかったので、この活動はすべて照りつける太陽の下で行われました！

このような行事の際には、当然のごとく私はアシュラムに来ていました。私の妹はすでに来ていて、スワミは彼女を「リリー」と呼んでいらっしやいました！ スワミは妹のところに来ておっしやいました。

「さあ、リリー！ サーヴィトリー アンマーを手伝いに行きなさい。彼女は貧しい人々に与える食べ物を料理しています。行って彼女の手伝いをしなさい」

私もそこで妹の隣に立っていました。すると妹はスワミの方を見て尋ねました。

「スワミ、彼女はどうかでしょうか？ 彼女も私と一緒に来て手伝うことはできますか？」スワミはおっしやいました。

「いいえ、ラニ マーはここにいるだけでよろしい」そこで妹は尋ねました。

「スワミ！ あなたはいつも私を仕事に送られますが、なぜラニ マーは送られないのですか？ スワミ、どうかラニ マーも行かせてください」

これ（妹の質問）に対して、スワミは返答されました。

「いいえ！ 私は彼女を行かせません！」スワミの返答に頭を悩ませた妹は尋ねました。

「なぜですか？」スワミはお答えになりました。

「あなたはブラフマチャーリニー（独身女性）です。あなたは働く必要があります。ラニ マーはグリハスタ（主婦）です。彼女はすでに家庭で多くの仕事をしています！ 彼女は子どもたちや夫の面倒をみて、そのような家事を全部行ってきました！ 彼女は靈性修行のためにここに来ました。なぜなら、家庭の中では多くのこと（靈性修行）ができないからです。彼女はここで瞑想をして、靈的に進みたいのです。彼女はプッタパルティから、私から、それを求めています。ですからラニ マーは自分の部屋にいて瞑想する



のです」

スワミは私のために結論を出され、「私は彼女を行かせません！」と妹におっしゃいました。

私がいかなる活動に参加したくとも、それ（スワミのお答）は同じでした。私がどんな活動についてお話ししても、なぜだかわかりませんが、スワミはいつも、

「いいえ、あなたは行かなくてよろしい」とおっしゃいました。

今ここで私がお伝えしたいことは、スワミはとても個人的なグル（導師）だということです！ スワミは「私を常に礼拝しなさい！」とはおっしゃいません。家庭内でどのような仕事に従事していようとも、神に奉仕しているように行うのです。これは主婦に対してスワミがおっしゃったことです。

「夫を神と見なしなさい。子どもたちに怒鳴ってはなりません。怒ってはなりません。優しく話しなさい。彼らは何を言おうとも、彼らが神であるという意識で接しなさい」それは、スワミが私たちに課されたサーダナ（霊性修行）なのです。

家庭内で声に出して明言すること

しかし、かつてスワミは非常に困難なことをおっしゃいました。私がプッタパーティに来る際には、夫は何を言おうとも私は耐え忍んでいました。私の夫はパパ様のことに反対はしていませんでしたが、私が頻繁にパパ様の元を訪れていることが理解できなかったのです。ある日、私がプッタパーティに来る際、夫が私を駅まで送ってくれたとき、夫は私に尋ねました。「いつ戻ってくるのかね？」「わかりません」と私が言うと、夫は言いました。「わからないとはどういう意味だ！では誰にわかるのだ？自分の予定は自分でわかっているべきではないのか！」私は言いました。「残念ながら、プッタパーティをいつ出発するか、私たちにはどんな予定も立てることはできないのです。それはスワミがお決めになることだからです」

当時はこのような会話が、常にお決まりのパターンでした！ 事前にチケットを購入することはできなかったのです。例えば、仮に 24 日のチケットを買っていたとしても、スワミが「来月の 1 日に発ちなさい」とおっしゃるかもしれません。いったい誰が来てそのチケットをキャンセルしてくれるのでしょうか？そこで私は夫に話しました。

「私はどんな予定も立てることができません。それはスワミの決断に従うことが前提だからです！ ですから私が発つべきときが来れば、スワミが私に告げられるのです」

夫は言いました。

「なぜそんなことをすべきなのか私には理解できない！」

私は言いました。

「スワミは私たちのグルなのです！ 私はスワミに従わなければなりません！」

この（夫とのやりとりの）後で、私がプッタパーティに到着するとスワミは私をお呼び

になりました。私は上階へ行きました。次に起こったことは、もう一つのスワミの遍在を示す証拠でもあります。スワミはおっしゃいました。

「スップラマニウム (ラニ マーの夫の名前) は車の中で・・・と言っていましたね。そしてあなたは・・・と答えました」 そうしてスワミは私たち夫婦の会話をそっくりそのまま繰り返されたのです！ スワミはおっしゃいました。

「いいですか！ あなたはあまりにも沈黙し過ぎです！ スップラマニウムに霊的な人生において正しいこと、ダルマ (正義) とは何かを話し始めても良い頃です！ あなたは話さなければなりません！ なぜ黙っているのですか？」

私は言いました。

「スワミ、私はどんな口論もしたくありません。あえて言い争いをしたくないのです」

スワミはおっしゃいました。

「いいえ！ あなたはダルマ ユッタ (正義の戦い) をしなければなりません！ あなたは何も自分勝手な理由で戦うわけではありません。これはあなたのグルのためです、あなたのグルへの服従です！ あなたは夫に話して彼を教育しなければなりません。彼は知らないからです。あなたの夫にはグルがないからです。ですから沈黙し続けていてはなりません！ ダルマ (正義) が関係している時には話さない。黙っていることは、ある意味であなたが自分勝手 (利己的) でいるということです。自分が口論したくないからです。あなたはいかなる犠牲を払っても、自分の平安が欲しいのです！ それは間違いです。なぜ『ギター』は説かれたのでしょうか？ それはダルマ ユッタ (正義の戦い) のためです！ あなたは夫に説いていませんが、彼があなたを責める時は、何がダルマであるかを話さなければなりません！ 説教をする必要はありません！ しかし、あなたが非難された時は、夫に知識を与えなければなりません！」



何度か私の人生の中で、このようなことが起こりました。以前は義理の母親とも (同じようなことが) 起こりました。それでこの (スワミからのご指示の) 後すぐに、私は夫にも説明するようになりました。彼はなぜスワミが手紙を書かれるのか、なぜ私が返事をするのかわかりませんでした！ 夫は「おまえは何を書くのだ？」と尋ねてきました。彼にはグルと弟子の概念がまったくありませんでした！ スワミはおっしゃいました。

「あなたは彼 (夫) を教育しなければなりません。それはあなたの責務です！ あなたは何も悪いことをしていません。あなたは正しいことをしているのです。あなたが悪いことをしているなら、もちろんその時は沈黙を守らなければなりません」

ホワイトフィールドでスワミのお優しい配慮を受ける

私が破傷風から回復した後、スワミがチェンナイに来られた際、私はスワミに会いに行きました。スワミは私の他のジャンマ（前世）とスワミのアーンドラ プラデーシュ州の旅について、私の夫に長い時間お話しになりました。スワミは夫に、何人かのナクサル党员（インドの反政府武装組織、毛沢東主義派）がスワミを暗殺しようとし、彼ら全員がスワミを襲うため、樹木の頂部に座っていたことを話されました。

「私が旅に出たとき、ナクサル党员がそこにいました・・・木々の上に腰をかけて・・・何も起こりませんでしたでしたが・・・」

そうして、その件をすべて話された後、スワミは私のところに来ておっしゃいました。

「ラニ マー、あの病気の後、あなたはとても衰弱した状態です。ホワイトフィールドに来て、しばらく私と共に滞在しなさい。あなたは元気を取り戻さなければなりません！ ですからまだ帰ってはなりません。ホワイトフィールドに来て、プリンダーヴァンのアシュラムで私と共に滞在しなさい」

そこで、私はプリンダーヴァンのアシュラムに行き、滞在することを決心し、スワミにも仮の到着日程を伝えました。しかし、私がアシュラムに到着する前にスワミはボランティアの女性たちに指示されていました。

「ラニ マーという人が来ます。彼女は人混みの中で座っているでしょう。行ってこう尋ねなさい。『ここにラニ マーという方はいらっしゃいますか？ スワミが中に来るようにおっしゃっています』」

信じられますか？ スワミがこのような配慮をしてくださったのです！ 彼女たちは来て尋ねました。「ラニ マーとはどなたのことですか？」

しかし、そのとき私はまだそこに到着していませんでした。少し遅れて到着したのです！ とりあえず、セヴァダルたちはスワミのもとに戻り、言いました。

「スワミ、確認しましたが、ラニ マーという方はいらっしゃいません！」

スワミはお答えになりました。

「いいえ！ 彼女は来ています！ 戻りなさい！ 彼女は少し遅れています。行ってもう一度尋ねてみなさい」スワミはセヴァダルたちを戻らせました。その間に、私はすでに到着していました。ですから、私がアシュラムに到着した際には、一人のセヴァダルが人混みの中で尋ねていました。



「ラニ マーという方はここにいらっしゃいますか？ 立ち上がってください。スワミがすぐ来るようにとのことです！」

そして私は彼女と一緒にスワミのもとに行きました。スワミは私に滞在するための部屋を与えてくださいました。しかし、娘も私と一緒に連れてきていたので、スワミの許可を頂きたくて尋ねました。

「スワミ、私は娘と一緒に連れてきています。娘に帰宅するように言うべきでしょうか？あるいは私と一緒に娘を滞在させるべきでしょうか？」 スワミはお答えになりました。

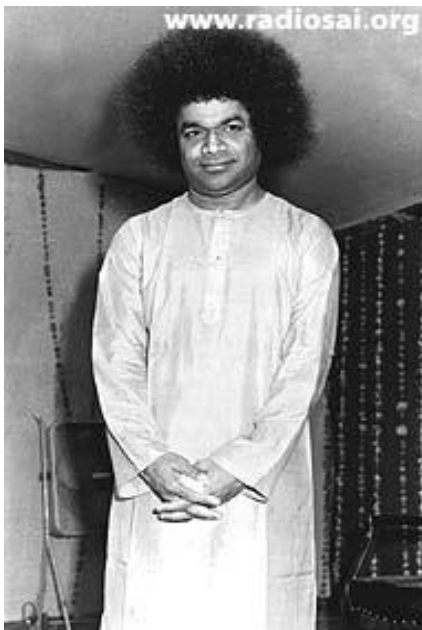
「はい。シーラ（娘）もあなたと一緒に滞在してかまいません。彼女はあなたの助けになるでしょう。あなたと一緒に彼女も連れて来てよろしい」

そうして（スワミの許可を得て）初めて、私は娘を中に連れていきました。スワミの許可なしに、誰も中に入ることはできないのです。

理想的な帰依者

そして翌日、そこで滞在中、スワミは朝の7時ごろに私の部屋に来られて、

「私と一緒に来なさい」とおっしゃいました。私の部屋は階下であり、居間、バスルーム付きの寝室、そしてバルコニーがあり、それはまるでスイート（特別室）のようでした。スワミの部屋は上階にありました。スワミは降りて来られて、別室で眠っている娘をご覧になりました。スワミは娘の睡眠を邪魔したくはなかったのです。そこで、スワミは私をバルコニーに連れて行って、お尋ねになりました。



「あなたは何が欲しいのですか？ 私はあなたが望むものを与えましょう！」

なぜスワミが急にまたこの質問をされるのか、不思議に思いました！ 私は言いました。

「スワミ、私は理想的な帰依者になりたいのです」

スワミはおっしゃいました。

「あなたがしなければならないことは何だかわかりますか？」 私は答えました。

「いいえ、スワミ。私が何をしなければならないのか、どうかご教示ください」

すると、スワミはこうおっしゃいました。

「服従です。ある日、あなたが私のもとに来た時は、私はとても優しくあなたを迎えて話をするでしょう。けれども他の日に来ても、私はこう尋ねるかもしれません。

『誰があなたに来るように言ったのですか？ 帰ってください！』 私は素っ気なく、不愛想に接するかもしれません！ あなたはその両方を平等に扱わなければなりません！ 異なった受け止め方（扱い）があってはなりません！ 両方の待遇に対して冷静でなければなりません！ 反応すべきではありません。私が優しいとあなたは幸せでしょう。そして、私が優しくなければあなたは不幸でしょう！ これは帰依者のラクシャナ（特性）ではありません」

スワミは次にこうおっしゃいました。

「かつて、あなたは誰かにバジャンを教えるために、ここホワイトフィールドに来ていましたね。そうではありませんか？」

「はい、スワミ」と、私は言いました。かつて、私はバンガロールにいる妹のところに滞在していたのですが、ある外国人に数曲のバジャンを教えるため、(バンガロールから) ホワイトフィールドに通っていました。この婦人は、スワミがホワイトフィールドにおられる時はスワミと一緒に建物内に滞在していました。しかし、スワミがチェンナイに行かれた後、彼女は私にバジャンを教えることができるかどうか尋ねてきました。私は喜んで承諾し、毎日彼女にバジャンを教えるためバンガロールから通っていたのです。

これは、ある日スワミがチェンナイから戻られるまで、長い間続いた毎日の日課でした。いつものように、彼女に教えるためにホワイトフィールドに行くと、彼女が言いました。

「スワミがお帰りになりました！ 今日私の誕生日なのです。私はとてもラッキーです。スワミがチェンナイからお帰りになったのですから！ 今日はバジャンを習うことができません！」 これは私が帰宅しなければならないことを意味していましたが、彼女はそのことを察して言いました。

「でも、どうしてあなたを送り返すことなどできるでしょう？ 私は中に行って、あなたも入れるかどうかスワミに尋ねてみます」

何びとも、スワミの許可がなければ中に入ることはできません。そして、彼女は中に入ってスワミに尋ねてくれました。

「スワミ、ラニマーが来ています。彼女は私にバジャンを教えるために、毎日来てくれています。しかし、今日は習いたくありません。私はあなたと一緒にいたいのです。でも彼女は遙々バンガロールから来てくれているので、彼女を中に連れて来てもいいですか？」 スワミはお答えになりました。

「ダメです！ 彼女に帰宅するように言いなさい！」

スワミからのこのお返事は予想していませんでしたので、その婦人はなお一層スワミに迫りました。

「なぜですか、スワミ？ どうしてラニマーは来ることができないのですか？」

その婦人はスワミと議論しようとして試みました！ 私が知っているもう一人の外国人の婦人もその場に居合わせていて、スワミに尋ねました。

「彼女もあなたの帰依者です！ スワミ、どうしてラニマーにもダルジャンを与えてくださらないのですか？ どうか彼女も中に入れてください！」

しかし、スワミは断固としておっしゃいました。

「絶対にダメです！ 私はラニマーを中に入れてたくありません！ 彼女に帰るように言いなさい！」

それゆえ、私がバジャンを教えていたその婦人は、とても悲しそうな面持ちで外に出てきました。婦人は私に言いました。

「ラニマー、あなたは帰宅しなければなりません。私たちはあなたを中に入れてほしいとスワミにお願いしましたが、スワミはダメだとおっしゃいました。ですからあなた

は帰宅しなければならないでしょう！」

そこから自宅まで、私は電車や他の交通手段を使って帰宅していました。私は帰宅の途につく電車の中で考えました。

「なぜスワミはこのようなことをなさるのだろうか？ スワミに愛はないのだろうか？ 優しさはないのだろうか？ スワミはこんなことをすべきではない。結局のところ、私にダルシャンを与えたからといって、スワミが何を失うというのだろうか？ 私はずっととても幸せだったのに、スワミは私を否定なされた。なぜスワミはこんなことをなさるのだろうか？」

これは（私の）思いだけであり、電車には一人で乗っていましたので、他の誰にも（この思いを）伝えたわけではありません。しかし突然、次のような思いが起きました。

「いや違う！ 私にはスワミに疑問を持つことなどできない。何と言ってもスワミは私のグルなのだから。スワミは自分のグルに疑問を持つべきではないとおっしゃった。だからスワミが何を言われようとも、私はそれを受け入れるべきなのだ」

このように言いながら、私は自分自身を慰めました。どうしてスワミが私を中に入れてくださらなかったか、本当に理解できなかったからです。

私がスワミに「理想的な帰依者」になりたいと話した際、スワミがこの出来事を持ち出されたときは信じられませんでした！ これは数か月前に起こった出来事だったので、スワミはおっしゃいました。

「あなたは（ここに）来て、それから帰宅途中の電車の中で考えていましたね。『なぜスワミはこのようなことをなさるのだろうか？ スワミに愛はないのだろうか？ スワミの愛はどこにあるのだろうか？ まったく愛がない！』そのようにあなたは心の中で考えていました。これがあなたの最初の思いです。そして二番目の思いは、『ああ！ スワミは最善をご存知だ！ スワミはどうすればよいのかご存知だ。どうして私がスワミに疑問を持つことなどできるだろうか？』そして、あなたは自分自身を慰めました。しかしながら、そこには理解がありませんでした！ あなたは理解することなく自分を慰めたので、悲しかったのです」

スワミは続けておっしゃいました。

「今日、私はあなたに伝えるために来ました。あなたは最初の思いを持つべきではありませんでした。あなたの二番目の思い、『スワミはすべてをご存知だ！』を、最初に思うべきでした。私に疑念を持ったあなたの最初の思い、『なぜスワミはこのようなことをなさるのだろうか？』は取り消されるべきでした。私に疑念を持つことなど、誰にもできません。理想的な帰依者は何も問うべきではありません。あなたの二番目の思い、『スワミはすべてをご存知だ！』が正しい思い

www.radiosai.org



です。それであなたの仕事は完結し、あなたは理想的な帰依者になります！ですから理想的な帰依者になるためには、グルに一切問うてはなりません！」

何年もここに通い続けていた帰依者が、どうして突然スワミのもとを離れるのか、このことが説明になるかもしれませんが。その人たちは全員教養のある、立派な地位にある人たちでした。しかし、その人たちはスワミを理解していなかったのです！ スワミは絶えずご講話の中で、そしてインタビューの中でも、言い続けてこられました。

「私を理解しようとしてはなりません！ それは役に立たない無駄な試みです！」

スワミを理解することがなぜ難しいのかを理解させるために、スワミが何年も前に示してくださった例え話を思い出します。スワミは、

「それはあたかも浜辺で砂粒を数えるようなものです！」とおっしゃいました。私たちは浜辺の砂粒を数えることができるのでしょうか？ それは不可能な仕事です！ そして、それがスワミを決して理解できない理由なのです。なぜならそれは啓示であり、理解を伴うものではないからです。スワミが何者であるかは、決して知識、論法、尋問、読書、あるいはサーダナ（霊性修行）によって知ることはできません。何であれ、私たちをそこ（理解に達する段階）に連れていくことはできないのです！ スワミがあなたに満足され、喜ばれるときに、スワミはご自身をあなたに明らかになさるでしょう！ ですから、たとえ今、「スワミは至高の存在だ」と言ったとしても、覚えておいてください。私たちは後にそのことを忘れる傾向にあり、スワミの御教えにそぐわない多くのことを行ってしまうのです。このようにして、パラマートマ（至高の神）としてのスワミの期待を裏切るのです！ これは、スワミがここで強調されたことです。

“私は重要ではない。重要なのは私の教えである” –ババ



かつて、私の娘がスワミに尋ねたことがあります。

「スワミ、あなたは私たちの家族にとってもよくしてくださいました。私たちはいつも同じ祝福が欲しいのです。どうすればそれ（同じ祝福）を保持できるのでしょうか？」

スワミは頻繁に私たちをインタビューに呼んでくださり、私たちの部屋にも来て話してくださっていました。それはとても特別なことでした。それで娘はスワミに尋ねたのです。

「スワミ、あなたが私たちにしてくださっているような接し方で、私たちは常にあなたの恩寵を受け取ることができるのでしょうか？」 スワミはお答えになりました。

「わかっていると思いますが、あなた方はプッタパーティに来ることや、ダルシャンを受けることによって恩寵を得ているわけではありません。そうではなく、あなた方が私の教えを

固く守り続けるなら、サムプールナ クリパー（完全な恩寵）を受け取るでしょう！ 私にしがみつ়くのではなく、私の教えにしがみつきなさい！」

私たちがスワミにしがみ続けると何が起こるでしょう？ 私たちはスワミを所有しようとしています！「スワミは私を見てくださらなくてはいけない！」これはスワミを所有するようなものなのです！ スワミにどうすべきかなど言えません！ スワミはおっしゃいました。「私は重要ではありません。重要なのは私の教えです」

スワミはこれらすべてを、インタビューの中で私の娘にお話しになりました。

また別のインタビューでも、スワミは次のようにお話しになりました。

「もしプッタパルティに来ることでインスピレーション（靈感）が得られるなら、来るべきです。もしあなたの心が乱されてインスピレーションが得られないなら、来てはなりません！ なぜなら、この道には絶え間ないインスピレーションが必要だからです」

あなたが悲しみ、落胆し、腹を立てているなら、賢明にサーダナ（霊性修行）に最善を尽くすことはできません。スワミはおっしゃいました。

「あなたが何かを行うためには、常に快活で幸せな感情を保たなければなりません。そしてそれを行うためには、インスピレーションを得なければなりません。インスピレーションが得られれば、あなたは気分が良くなります。これは常に、とても必要なことです！」しかし、『私が（プラシャーンティに）行かなければ人々はどう思うだろう？』といった思いは考慮するべきではありません。それらは主に気に留めることではありません。私たちは自分自身に言い聞かせなければなりません。

「私は（プラシャーンティに）行くようインスピレーションを得ているだろうか？」と。もし答えが「いいえ」であれば、来てはなりません！

サイの遍在を捜し求める

プラシャーンティ ニラヤムでの別のインタビューで、私は尋ねました。

「スワミ、チェンナイではサティヤ サイ セヴァ サミティ（センター）のために、私は何も仕事をしておりません。それは正しいことでしょうか？ 間違っているのでしょうか？ あなたの帰依者として、私はそこへ行って奉仕活動を捧げるべきでしょうか？」

スワミはお答えくださいました。

「サティヤ サイ！ サティヤ サイ！ ラニ マー、あなたは私のことを理解していなかったのですね！ 私はただのサティヤ サイではありません！ 全世界が私なのです！ 何であれ、あなたが善い仕事をするなら、それは私に届くのです！ あなたはもうそれを悟るべきときに来ています！ どうして私をサティヤ サイのみに限定するのですか？ あなたがそこに行きたいというインスピレーションを受けなければ、行ってはなりません！ あなたがいたいと思う場所にいなさい！ ただし、善い仕事を行いなさい。どこにいようとも、誰のために善い仕事を行おうとも、ラーマ、クリシュナ、何のためであろうとも、それは少しも重要なことではありません！ それはすべて、ただ『私』のみに届くのです！」

ですから、これらはすべて非常に深遠な事柄なのです！ スワミが今、変革されようとしていることですが、人々はスワミを物理的な身体のみ限定しているのです。いいですか・・・だから私たちは「ああ！ スワミは私に話しかけてくださらなかった」と失望するのです。スワミは「神はアンタルヤーミ（内在者）であると理解している者は、真に賢明です」とおっしゃっています。スワミはおっしゃっています。「私は聞いています！ あなたはそれを信じないのですか？」あなたはスワミが言葉を返されるのを聞いていないかもしれませんが、神、アンタルヤーミ（内在者）は間違いなく聞いておられます！ スワミは『サイ ダルシャン』という本の中でおっしゃっています。あなたが神に対して（言葉を受け取る）用意があれば、神はあなたの内側から言葉を返すでしょう、と。

そして、多くの帰依者がこの体験を得てきました！ このような意識の段階にまで高めるかどうかはあなた次第です。

「絶対に（疑うことなく）私に従いなさい。どんなときも、どこにいても、私の存在を意識しなさい。そうすれば、あなたは誰をも傷つけることはないでしょう。あなたが私の存在を意識すれば何が起こるでしょう？ 私があなたを通して仕事をし始め、あなたが正しいことを行うよう仕向けるのです」



仮に、私が誰かに対して無礼な態度を取りたいと思ったり、私の心が健全な状態でなかったりしても、実際に反応する前に、次の思いは「いいえ！ 余計な干渉をしてはなりません。何も発言してはなりません。沈黙を守りなさい！」となります。それは（自然に）やって来るでしょう。なぜならあなたはスワミの教えを絶えず実践し続けているからです。それはどんなときでも自発的に起こるとは限りませんが、時が来れば、自発的になるでしょう。そうならなければなりません！ それが神の法則です！

スワミはおっしゃいました。

「あなたが私に（内側で、霊的に）近づけば近づくほど、物理的（身体的）に、私との距離は遠くなるでしょう！」それは神のサイン（印・合図）の一つです。ババ様はおっしゃいました。

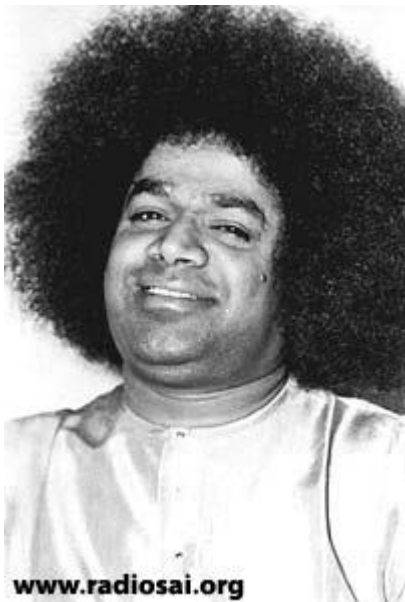
「私が霊的に近づくとき、私は身体的にはあなたと非常に距離を置くでしょう。なぜなら、あなたは私の真の性質（本質）を認知したからです。そのために私は来たのです！ 私の主要な使命とは、内なるグルを目覚めさせることです。内なるグルは外側にはいません。外側のグルから始まりますが、その外側のグルが内なるグルへと導くのです」

それがスワミのご使命の目的です！（外側の身体を持った）グルでありながら、そこ（内側のグル）へ導くのがスワミのお仕事なのです。そうでなければ真のグルではあり

ません！ スワミは俗世界のものを与えに来られたわけではないのです！ スワミはあなたから世俗的なものを取り除こうとなさっているのです！ スワミは世俗的なものもすべてお与えになるでしょう。なぜなら、あなたはまだスワミが本当にあなたに与えたいものを受け取る準備ができていないからです。徐々に、スワミはあなたを落胆させることをなさるでしょう。そしてあなたはうんざりするでしょう。スワミがそのような一切の経験をあなたにさせられると、あなたは言うでしょう。

「ああ！ 私はこのようなものは欲しくありません。私はそのような、外側にあるものからは何も得ていません」と。スワミはこのような心の状態を必ずもたらされます。スワミはこの世で、あなたにとって非常に困難なことをもたらされます。ですから、あなたがこの世を好きになることはないでしょう。あなたは思うでしょう。

「この一切のサムサーラ（世俗的な人生）から逃れたほうがましだ！」と。



それは、私たちにグニャーナ（英知）を教示する間接的な方法なのです！ この世（世俗）は私たちに何も与えることはできません！ 悲しみ、問題、失望のみです！ それなのになぜ私たちは存在するのでしょうか？ これらの思いは内側から来なければなりません！ スワミは私たちが願うものは何でも与えてくださいますが、覚えておいてください。この世はあなた方に平安をもたらすことはできません。もしこの世が私たちに平安をもたらすことができると考えているなら、それは無知です！ この世は私たちに平安をもたらすことができないと考えるなら、それはグニャーナ（英知）です！ それは智慧です！ あなたがそれを理解しているのなら、それで十分です。ですから、あなたはそのことに取り組み始めるべきです。

スワミは私のもとに来てお話しになりました。

「（書物を）多く読む必要はありません！ インスピレーションを得るのに必要なものは、何であれ読みなさい」スワミは私たちに多くの書物を読み過ぎることを禁じられました。その代わりに、スワミはこうおっしゃいました。

「さまざまな著者間の矛盾はあなたを混乱させるだけです！ 偉大な哲学者や知的な討論は無意味です。あなたが読書をしたいのなら、聖者の生涯（伝記）を読みなさい。どんな聖者でもかまいません。キリスト教の聖者、イスラム教の聖者、ヒンドゥー教の聖者、彼らは（神に至る）道を辿りました。彼らは霊的な旅をしました。彼らの道は非常に明白であり、道中でわな（落とし穴）や困難に遭遇することを知っていました。彼らの人生はすべての問題を示し、最終的にどのようにして善き手本となったかを示してくれるでしょう」

以前、私は毎週一度ダルシャンに行っていました、今は月に二度だけです。このこ

とに関してスワミはおっしゃいました。

「それで十分です！ あなたは（ダルシャンに）来て、私の祝福、私のオーラを受け取りなさい。あなた自身（真我）と共にいなさい。自分自身にこう言い聞かせなさい。『スワミ、あなたはどこにでもいらっしゃいます！ あなたは私の自宅にもおられます』そうすれば、私はあなたにその真実を見せましょう！ あなたはそれ（遍在の神と生きること）を実践しなければなりません。このホールの中や、あちこちの場所や、このバジャンホールの中でさえ、私をそこに限定すれば、私はそこに現れてあなたを幸せにしましょう。しかし、私を限定してしまえば、あなたは私のあまねく満ち亘る霊、パラブラフマンを体験することはできないでしょう」

ですから、スワミが私たちを絶え間なく、常に導いてくださっている間に、私たちはできる限り実践しなければなりません。しかしながら、私はこの道が困難であり、前途遼遠であることを実感しています。

第5部へ続く・・・

出典：http://media.radiosai.org/journals/Vol_06/01JUL08/14-h2h_special.htm